



### 7月の漁況と海況 (内海側)

#### ◎海況

1日〜2日に実施した海洋観測結果によると大阪湾北東部で表面水温20.0℃内外、中・底層19.0℃内外で前月同期より3.0℃内外の昇温を示したが、依然として昨年より1.0℃〜2.0℃低目、南海部海域では表面21.0℃〜22.0℃、中・底層20.0℃〜21.0℃を示し半平流かやや低目に推移した。また3日〜4日の播磨灘では全海域とも表面水温20.0℃〜21.9℃で半平流かやや低目を示し前月発生した西部海域における底層の低水温域は14.0℃台で引続き半平流〜4.0℃の異常冷水塊が持続している。一方17日〜18日に実施した紀伊水道北部の海洋観測結果では東・中部海域では表面23.0℃〜24.0℃、底層19.6℃〜21.1℃、西部では上・下層共21.0℃内外を示し全海域にわたって昨年より1.0℃〜2.0℃低目に推移し前月同期より1.0℃〜3.0℃の昇温だけにとどまった。

#### ◎漁況

(概況) 前月に引続き上る潮、鹿の瀬漁場を中心として操業中のイカナゴパッチ網は月前半までは連日好漁が続いた。月後半に入りやや低調となったが本年は漁期が長く依然活況を呈している。また各地ともタコ漁の本格的なシーズンに入り並網、一本釣、小型底曳網などで昨年引続き順調な漁獲を続けているがスズキ、マルアジ、などの一本釣は低調となった。一方各地の小型底曳網は出漁船が最も多い時期で現在エビ類、タコ、アナゴなど漁獲対象となっているが、例年に較べて高級エビの入網が少なく水揚げは伸びずやや状態ではなかでも鳴門南北海域で操業中の小型底曳網は南部ではエビ、カレイ類北部ではキス、カレイなどの大目な入網減少で近年になく低調である。反面同海域での延縄漁は連日好漁が続いている。また昨年同期各地で活況を呈したチヌオの曳網約は現在紀伊南海部海域で操業されている程度で大阪湾、播磨灘では本格的な操業は行なわれていない。

#### ◎各地

- 神戸西部** 小型底曳網1日1隻エビ(カワツ)30キロ、キロ当たり1,000円、タコ20キロ、キロ当たり300〜500円、メイタカレイ3キロ、キロ当たり1,200〜1,500円、13隻アナゴ網1日1隻20〜30キロ、キロ当たり350〜450円、6隻。
- 明石浦** イカナゴパッチ網1夜1隻、月前半2,000〜4,000キロ、月後半1,000〜1,500キロ、キロ当たり25〜30円、75隻漁之瀬。アジ曳網1日1隻、50尾内外、1尾100〜130円、50隻。スズキ一本釣1日1隻3〜5キロ、キロ当たり2,000〜3,000円、20隻。小型底曳網1日1隻エビ10キロ、キロ当たり350〜500円、アナゴ20キロ、キロ当たり300〜400円、タコ15キロ、キロ当たり300〜500円、ハリイカ5キロ、キロ当たり500円、カレイ類3キロ、キロ当たり1,500円、20〜50隻。
- 見** 小型底曳網1日1隻、ベラ5キロ、キロ当たり500円、アブラメ3キロ、キロ当たり200円、タコ10キロ、キロ当たり400円、20〜25隻。タコ並網1日1隻60キロ、キロ当たり500円、3隻。ベラ釣遊漁100隻。
- 岩屋** エビ並網1日1隻50キロ(大30キロ)(小)250円、30隻。タイ五割網1日1隻、4〜5尾目録1.2キロ内外、キロ当たり2,500円、5隻。アジ一本釣100尾、1尾80円10隻。タコ並網20〜30キロ、キロ当たり500円、5隻。タコ一本釣15キロ、キロ当たり400円、10隻。スズキ一本釣2〜3尾目録1〜2キロ、キロ当たり2,500〜2,700円、60隻。
- 飯屋** 小型底曳網1日1隻、エビ30キロ、キロ当たり380円、アナゴ30キロ、キロ当たり200円、ハモ5キロ、キロ当たり750円、外タコ、シャコエビ、40隻。
- 由良** 小型底曳網1日1隻、エビ(カワツ)20キロ、キロ当たり800円、キス3〜4キロ、キロ当たり600円、ハモ2キロ、キロ当たり1,200円、タコ10キロ、キロ当たり400〜500円、40隻。タイ底曳網1日1隻20キロ、キロ当たり2,000〜2,200円3隻。アジ、サバ一本釣100尾(アジ)70円(サバ)30円、40隻。
- 沼島** 小型底曳網1日1隻、エビ30〜40キロ(大)キロ当たり450円(小)150円、アナゴ10キロ、キロ当たり180円、外エソ、ハモ、シャコエビ、手塚タコ各2〜3キロ内外30隻。タコ並網1日1隻50キロ、キロ当たり400円、4隻。建網1日1隻アイゴ(2〜3才もの)100キロ、キロ当たり500円、25隻。アジ、サバ一本釣1日1隻70キロ(アジ)300キロ、キロ当たり230円(サバ)70円、50隻。タコ一本釣10キロ、キロ当たり430円、ハモ網10キロ、キロ当たり900〜1,000円。
- 福良** タチウオ曳網1日1隻、80〜90尾(20キロ)キロ当たり200円以上250円、以下40円80隻。サバ一本釣1日1隻100キロ、キロ当たり100円、50隻。タコ並網1日1隻、120キロ、キロ当たり350円、3隻。タコ一本釣15キロ、キロ当たり350円、100隻。小型底曳網1日1隻、エビ20キロ、キロ当たり150円、赤貝50キロ、キロ当たり100円、35隻。
- 丸山** 小型底曳1日1隻、エビ40キロ、キロ当たり120円、シャコエビ40キロ、キロ当たり100円、11隻。タコ並網10隻50キロ、キロ当たり480円、8隻。延縄1日1隻、カサゴ50キロ、キロ当たり550円、アコオ12キロ、キロ当たり900円、15隻。建網1日1隻、アマ・イシ、カレイ7キロ、キロ当たり800円、メイタカレイ6キロ、キロ当たり90円、8隻。

#### ◎本月の特記事項

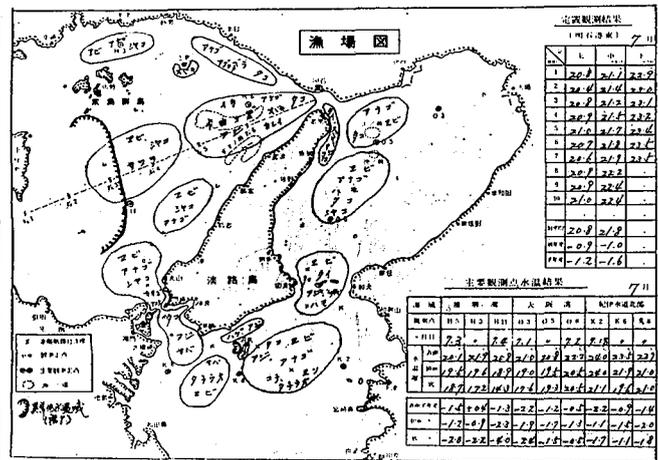
前月に引続きイカナゴパッチ網の好漁、本年は例年にくらべ水温上昇がおくれたので漁期が2旬程長く続いている。しかも昨年の約1.5倍(キロ当たり25〜30円)の高値を保持し前半1隻3,000〜4,000キロ、月後半の終漁期の現在でも1,000〜1,500キロと近年ない好水揚げが続いている。

鳴門海域および周辺のカサゴ、アコオ延縄1日1隻、50〜70キロ、タコ並網1日1隻120キロ内外の好漁が持続しているが、反面本月に入って同海域での小型底曳網の不振が目立っている。

沼島周辺で操業中の建網で連日アイゴの大漁が続いている。(1日1隻100キロ内外)また前月に引続きウマズラハギ(全長15〜20cm)の来遊が顕著で戦艦網に大量入網するが網の乱れとキロ当たり20円という不安定のため漁獲対象より外している。

#### ◎今後の見込

タチウオの大阪湾、播磨灘への回遊が低水温の影響などで昨年より2旬おくれ現在紀伊水道北部海域に主群が来遊しているが、魚群量はかなり少ない模様で、従って昨年のような豊漁は期待薄だろう。魚体については昨年同期と比較して小型(200g以下)のものが多。(水試・岩井)



#### (4) 斃死魚の処置

養魚場が魚が斃死した場合、斃死魚は殆んどすべて周囲の海上へ投棄している。魚を陸上へ取揚げて焼却している業者は如く稀で、一、二業者に過ぎないと思う。

養魚場へ出向けば周囲の海上にハマチの斃死魚体が波間に漂っているのをしばしば見受け、魚が斃死する場合にはその被害の大小に拘らず、魚は何等かの病気で死ぬのであって病気がなければ魚は死なない筈である。

人間の場合には伝染病であれば消毒し、隔離処置がとられる。家畜では屠殺場に回され理髪が焼却処分される。従って、魚も斃死魚が出れば是非其一ヶ所に集めて陸上で焼却する必要がある。

この処置を怠れば自分の漁場の健康魚にも影響するし、さらに養魚場が隣接しておれば他の漁場の魚にも影響を及ぼすことがしばしばある。

従って、病気の蔓延を防ぐために斃死した魚は海上へ棄てず陸上に持ち帰り焼却処分するよう心掛けて欲しいのだ。

特に、仕切網養魚の漁場は年々の行使で老朽化し、漁場は悪化してゆくと、魚にも住みよい環境を与えてやるためには斃死魚の処置を確立してもらいたい。(水試・片嶋)

今や、我が国の漁業者の生計維持の基である漁船の数は、二十余万隻に達しているが、これら内建つ漁船に散在する多くの沿岸小型漁船が危殆に瀕している。長い歴史を誇る民間損害保険会社として、引受けることが喜ばしく、それ故に国は漁業者の為に特別に漁船損害賠償法を制定し、これに基づいて行う漁船損害賠償事業を推進する傍、保険料の一部を国庫負担する等、各種に亘り助成措置が行なわれている。兵庫県内海地区では、四十四年度で四七六一隻の漁船が保険を利用しているが、まだ未加入船もある。今後、漁業者も大いに漁船保険を利用してほしいものである。漁船保険は普通損害保険と同期別々の二種類があるが、普通損害保険は現在一番利用されているが、一方の満期保険についてはあまり知られていないが、この保険についても適次改正され、今日でも漁業者にとって一番有利な保険となつていまふ。この満期保険とは、一種の養老生命保険ともいわれ、利点として保険料の掛け捨てにならず、喜ばれる漁船保険。しかも、損害に対する安心感を得ながら貯蓄も兼ねる保険です。この満期保険とは、漁船の耐用年数に及び、毎年減価償却する減価償却費に相当するものとして解釈もできる。この償却費を一定期間積立ることによって満期時には、保険金額が受けられ、代船建造費に充てられる。漁船業者が利用して下され。

**MARINE** いつも漁場に一番のり

- 主機用 4〜1000馬力
- 補機用 8〜3000馬力

●3J E形/30馬力

**ヤマハ**

### 養魚の調餌と造粒は

## コウベヒラガのミートチヨッパーで

養魚用ミートチヨッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

(例一報次第カタログ贈ります)

ミートチヨッパーとプレート、ナイフの専門工場

株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8  
TEL 代表神戸(078)62-1527



